

『就実教育実践研究』第10巻 抜刷  
就実教育実践研究センター 2017年3月31日 発行

# 造形ワークショップ「リズムでねんど」の試み

**Attempt at planning and running an art workshop  
“RHYTHM de NENDO”**

藤 田 知 里

# 造形ワークショップ「リズムでねんど」の試み

藤田知里（初等教育学科）

## Attempt at planning and running an art workshop “RHYTHM de NENDO”

Chisato FUJITA (Department of Elementary Education)

### 抄 録

本報告は、2016年5月28日（土）に開催された、子どもの造形活動をより豊かなものとするために、学生が中心となり、企画・運営されたワークショップ「リズムでねんど」に関するものである。

2011年度から毎年恒例として、就実大学教育学部初等教育学科で筆者のゼミナールに所属した4年生が、親子で造形活動を楽しむためのワークショップを開催している。本報告のプログラムは、①生きもの折り紙クイズ、②マーチでねんど、③モチッとねんど、である。このワークショップを通して、参加した子どもには、全身を使って粘土という材料にダイナミックに関わる造形活動を提供でき、また学生には、子どもの造形活動における指導や援助について実践から学ぶ貴重な機会となった。

キーワード： 造形表現、子ども、ワークショップ、地域貢献

### I はじめに

ルソーは「子どもは物体の熱さ、冷たさ、柔らかさ、重さ、軽さを感じ、物体の大きさや形やあらゆる感覚的性質を判断することを学ぶ。つまり、見たり、触ったり、聞いたり、とりわけ視覚を触覚に比較して、指で感じる感覚を眼で評価したりすることによって、学ぶのである。」<sup>1)</sup>と述べているように、子どもにとって粘土による造形活動は、大変魅力のあるものである。

筆者は、子どもにそのような粘土遊び、特に、家庭では経験しがたいダイナミックな遊びを提供できるワークショップを毎年開催してきた。本報告によるワークショップは、就実大学初等教育学科で図画工作・造形表現を研究している学生が自ら企画・運営を行ったもので、当日は7組、21名（ワークショップ参加者13名、保護者7名、乳児1名）の親子が参加し、折り紙や粘土遊びを楽しんだ。

## Ⅱ 「リズムでねんど」 取り組みへの経緯

### 1. ワークショップ開催の目的

ワークショップの目的は、例年①子どもが粘土という材料に親しみ、その感触を楽しむこと、粘土で表現したい好きなものをつくること、②造形ワークショップの開催を通して、学生が造形に関する子どもたちへの指導及び援助について学ぶこと、の双方向性のあるものとしている。

前年度のワークショップ「こねーるらんど」<sup>2)</sup>では、硬度の異なる3種類（硬い粘土、泥状の粘土、子どもが塑像するのに適した粘土）の粘土を準備し、それぞれの粘土の特性を生かして子どもたちに造形活動に取り組んでもらうことを目的としていた。しかし、硬度5<sup>3)</sup>の最も硬い粘土には、あまり子どもが集まらず、活動の初めに男子が1名（5歳）、手でパンチしていたが、すぐに別の粘土に移動してしまった。その後、女子が2名やってきたが、塑像に適した軟らかい粘土に人気が集まり、それにあぶれて仕方なく硬い粘土のコーナーにきた様子であった。彼女らは、根気強く手で粘土を練り、適度な硬さにした後、自由に好きなものを作っていた。

しかし、粘土はその硬度の違いによって、活動が変化し、遊びの幅を拡げることができると可能性を持つ造形材料である。そのため、前年度のワークショップでは、硬い粘土に取り組む造形活動の魅力は、ほとんどの子どもにとって体験できなかったと言ってよい。

上記の反省を踏まえ、前年度のワークショップにおいて子どもが遊びに取り掛かりにくかった硬い粘土をとりあげ、子どもが硬い粘土に取り組み、硬さを楽しみながら遊べる方法を模索した。したがって、③硬い粘土の特徴を生かし、ダイナミックな粘土の造形活動を展開する、ことを併せてワークショップの目的とした。

### 2. 「リズムでねんど」開催までの準備

ワークショップに関する調査やプログラムの検討は、2015年度後期授業の終わり頃から始めた。筆者ゼミナールの4年生が主となり実施するため、前年度のワークショップの活動記録を見直し、プログラムの内容について、意見交換しながら、プログラムの時間配分、指導上の注意点、準備物、環境構成及び実施内容を決定した。参加費としての材料費は、テラコッタ粘土や小麦粉粘土の一人あたりの使用量を概算し、その他消耗品を含めて決定した。

ワークショップの参加募集定員は、活動のリーダーとなる学生が責任をもって、参加者の世話や指導ができること、また会場となる教室の広さを考慮の上、保護者と子どもで15組とした。

会場は昨年度開催と同様、適度な広さがあり、造形活動に必要な道具や設備が備えられている就実大学T館デザイン室とした。事前に、机を5台、子ども用ツールを14脚準備しておき、①生き物折り紙クイズが終了した時点で片付け、1.8m×4.8mのマットにビニー

ルシートを張ったものを敷き、②マーチでねんど、③モチッとねんどのプログラムでは、そのうえで粘土遊びができるようにし、その周りを囲むように保護者席を設置した。流しには踏み台を置いて、子どもが水道に手が届くようにした。

各プログラムにおける詳細な準備は、後出の資料①～④「アイデアカード」を参照されたい。ワークショップの参加募集定員は小数のため、広報はチラシのみで行い、子ども、保護者ともに汚れても構わない服装で参加するよう明記した。チラシの配布は、就実大学附属就実こども園、及び大学近隣住宅で行った。

開催前日には、リーダーとなる学生が、その他子どもの名札や案内看板を含め、会場設営と併せて準備し、リハーサルを行い、プログラムの流れを確認した。

### Ⅲ 「リズムでねんど」実践内容

#### 1. 「リズムでねんど」の概要

「リズムでねんど」は以下のように実施された。

日 時 2016年5月28日(土) 9時30分～11時30分

場 所 就実大学T館405デザイン室

対 象 幼児から小学生(必ず保護者同伴のこと)

参加定員 子どもと保護者15組

材 料 費 100円

プログラム

- ① 生きもの折り紙クイズ
- ② マーチでねんど
- ③ モチッとねんど

当日は、保護者と子ども7組、子ども14名、保護者7名の計21名が参加した。そのうち、テラコッタ粘土のプログラム「マーチでねんど」に参加したのは、13名、乳児には「モチッとねんど」に参加してもらうこととした。リーダーとなる学生は4年生6名、3年生6名の計12名であった。

計画段階における「アイデアカード」及び事後の「活動記録」(資料①～④)は、昨年度に引き続き、和久洋三氏が作成したものを参考にして使用している。<sup>4)</sup>各プログラムでは、4年生のリーダーが担当を務め、進行にあたり、その他の学生が協力した。

#### 2. プログラムにおける各活動の概要

##### 1) プログラム開始前

ワークショップの受付は9時から始め、早めに来場した子どもはプログラムが始まる9時30分まで、机に模造紙を貼ったお絵描きコーナーで自由に遊べるようにした。



写真1 ワークショップの導入



写真2 生きもの折り紙クイズ

## 2) 導入 (9時30分～9時35分)

ワークショップの導入では、挨拶に引き続き、プログラムとリーダーの紹介を行った。併せて、保護者へ、ワークショップが研究活動の一環であることへの理解、写真及び動画撮影への許可をいただいた。参加者の多くにとってテラコッタ粘土を扱うことは初めてであったため、粘土に関する注意はリーダーが丁寧に行なった。

## 3) 生きもの折り紙クイズ (9時35分～10時05分)

一つの机に2人～3人、自由に座ってもらった。折り紙クイズの説明をして、「折り紙クイズBOOK」の台紙を配った。「折り紙クイズBOOK」はワークショップで折った折り紙を貼り付けるもので、事前に学生が制作しておいたものである。生きものに関するクイズを学生リーダーが出し、子どもが答え、その答えの動物を折り、できた作品を台紙に貼った。計4点の生きものを折った。「折り紙クイズBOOK」は「折り紙名人認定証」がついており、プログラムの終了後、リーダーが参加した子どもの名前を記入し、ワークショップのまとめのときに一人ひとりに手渡した。

## 4) マーチでねんど (10時05分～11時15分)

粘土は、硬度5のものを1人3kg用意した。ビニールシートの上に乗し、軟らかい粘土と硬い粘土両方に触れ、硬さの違いを感じた後、リーダーが「みんなの手で粘土を軟らかくしよう」と声をかけ、音楽に合わせて、粘土を叩いたり、練ったりした。一旦練る活動を止め、「最初に比べて粘土の硬さはどうなったかな?」といった声かけを行い、最初と練った後の粘土の硬さの違いに気付くようにした。「今度は立って踏んでみよう」と声をかけ、再び音楽に合わせて、かかとや尻等、体全体を使って粘土を踏み、軟らかくした。使用した音楽は、「アンパンマンマーチ」「ぼよよん行進曲」「さんぽ」の3曲である。

粘土の硬さや感触、形の変化を充分に感じ、粘土が適度な硬さになったら、学生の声かけに合わせて粘土を丸めたり、平らにしたり、細長くしたり、粘土造形の基本的な技法を学んだ。その後、好きなものを自由に制作した。完成した作品に名前を彫って、展示台に置いた。48点の作品が完成した。



写真3 折り紙を折る様子



写真4 マーチでねんど 足で粘土を踏んで練る様子

### 5) モチッとねんど (随時)

テラコッタ粘土を用いる「マーチでねんど」に参加できない、主に乳児のために用意したプログラムだが、テラコッタ粘土での遊びが終わった子どもも、自由に遊ぶことができるようにした。

ワークショップ当日の朝に、食紅を使用して4色の小麦粉粘土を準備した。乳児や幼児が安心して参加できるように「触ってみよう、もちもちだよ」などの声掛けをし、小麦粉粘土の感触を楽しんだ。違う色の小麦粉粘土を混ぜ合わせ、色の変化を楽しんだり、好きなものをつくったりした。また、型抜きを用いて好きな形に抜いて遊んだ。

しかし、乳児のなかには、着色された粘土に触ることを怖がる子どももいたため、着色しない自然な色のままの粘土を残しておく必要があった。

### 6) 鑑賞 (11時15分～11時30分)

全ての子どもが活動を終え、手足を洗い、後片付けを済ませた後、リーダーが子どもを作品展示台の前に集めて鑑賞を行った。自分の作品だけではなく、他の参加者の作品からも良いところを見つけることができるよう、リーダーがそれぞれの作品を紹介し、子どもが工夫したところを言葉でも表現できるように促した。最後に、参加者の名前が記載された「折り紙名人認定証」「折り紙クイズBOOK」を一人ひとりに手渡した。

### 7) 完成作品

作品を十分に乾燥させた後、800℃で焼成し、ワークショップ実施から約1ヵ月後に参加者へ返却した。

## IV おわりに

### 1. ワークショップの成果

本ワークショップの目的は3点挙げたが、目的①子どもが粘土という材料に親しみ、そ





写真5 こぶしを使って、パンチしながら粘土を練る様子



写真6 適度な硬さに練った後、自由制作の様子

の感触を楽しむこと、については、子どもたちの活動の様子、完成した作品及びその点数からも達成できたと考える。ワークショップの最後、まとめのときに、子どもが「折り紙クイズBOOK」を見返したり、粘土の作品について話したりする様子から造形表現に対する満足感と達成感が感じられた。

②造形ワークショップの開催を通して、学生が造形に関する子どもたちへの指導及び援助について学ぶこと、についてもアイデアカード、活動記録をまとめることで、各プログラムにおけるねらいや必要な援助等、様々な問題や課題が明らかとなり、次回の開催につなげることができるだろう。

目的③硬い粘土の特徴を生かし、ダイナミックな粘土の造形活動を展開する、に関しては、前回の反省を踏まえ、皆で身体全体を使って、粘土練りに取り組む工夫を取り入れた結果、非常に盛り上がる活動を展開させることができ、子どもたちが積極的に楽しんで硬めの粘土に取り組む様子を観察できた。

昨年度のワークショップでは、多くの子どもが練りやすい粘土に集まり、硬い粘土には1～2名の子どもしか集まらなかったため、「粘土を足で踏んでごらん」とリーダーが声をかけても、恥ずかしがって取り組むことはできなかった。しかし、全員で音楽に合わせて身体を動かしたため、足で粘土を練ることに抵抗を示す子どもはいなかった。むしろ、皆、足で粘土を踏むことを楽しんでいたのである。また、足だけでなく、手で思い切りパンチしてみることも夢中になって取り組む様子が見られた。参加者全員で取り組んだことが効果的であったと考えられる。

以上のように、手だけでは練りにくい硬い粘土でも、身体全体を用いることによって、粘土を練ることに取り組むことができ、またダイナミックな活動を展開させることができることが明らかとなった。

## 2. 今後の課題

本ワークショップでは、上記のように、「硬い粘土を用いた造形活動及び支援」が重要なテーマとなった。子どもたちは、十分に身体全体を使って楽しく粘土活動に取り組むこ



写真7 モチッとねんど



写真8 完成した作品

とができたが、「音楽に合わせて」という面では、指導が不十分であったように思われる。音楽をかけたことで、会場の雰囲気が良くなり、活動が盛り上がった感じはあった。しかし、子どもが粘土を踏んだり叩いたりする動きには、「音楽に合わせてリズムにのった様子」はあまり見られなかった。音楽の調子に合わせた動きの工夫等が、子どもたちに伝わっていなかったと考えられる。また、アイデアカード及び活動記録にも、「リーダーが音楽に合わせて動きを提案する」ことについては、あまり触れられていない。そのため、次回のワークショップでは、リーダーとともに、「音楽に合わせてリズムに乗った造形活動を展開する」ことをねらいとしたい。

プログラムは、折り紙と粘土遊びの2本立てで展開したが、どちらにおいても子どもたちが楽しんで活動してくれたことが学生たちにとっても大変喜ばしいことであった。

事後に保護者の方に依頼したアンケートでは、「多数の目で子ども一人ひとりに気がつける状態で、とても安心して参加できました」、「多くのスタッフが丁寧に対応して下さり楽しめました」等の感想をいただき、学生の働きを評価していただけたことも、彼らの励みとなったことであろう。

ワークショップの活動を通し、造形と教育に関するお互いの相互作用をめざして、学生と参加者が双方向性を持って学び合い、造形活動においてさらなる表現意欲、創造性を高めることができるよう、次年度開催に向かって気持ち新たに取り組みたい。

#### 注及び参考文献

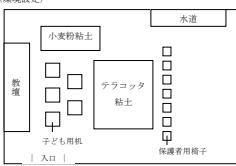
- 1) ジャン・ジャック・ルソー、1967、『エミール1』、明治図書、p.70
- 2) 藤田知里、2015、「造形ワークショップ『こねーらんど』の試み」、『就実教育実践研究』、9、pp.151-161
- 3) 2014年度に行った調査結果から、子どもが塑像するのに最も適していると答えた粘土硬度の平均値は日本ガイシの粘土硬度計にて2.79であった。
- 4) 和久洋三、2006、『遊びの創造共育法①子どもはみんなアーティスト』、玉川大学出版部、参照。



# 資料 リズムでねんどと各プログラムに関するアイデアカード及び活動記録

## ① リズムでねんど (全体)

### アイデアカード

活動	リズムでねんど (全体)	対象年齢 幼児-小学生 活動時間 2時間 対象人数 14名 指導者数 12名
活動のねらい	・友達や学生リーダーと関わる中で粘土活動を楽しむ。 ・粘土の感触を知り、親しみをもつ。	
活動内容	準備・用意・注意 【導入】 ・9時半には受付を済ませ、子どもと保護者に分かれて自由に着席してもらおう。 ・挨拶をして、今日のプログラムを紹介し、学生の自己紹介をする。 ・注意事項 (投げない、食べない、粘土へらを振り回さない、作品を大切にすること) を伝える。  【展開】 1 折り紙「生きもの折り紙クイズ」 2 テラコッタ粘土「マーチで粘土」  フリースペース：小麦粉粘土「モッチと粘土」  (環境設定)   【まとめ】 ・子どもたちが制作した作品を認め、鑑賞し合う。 ・終わりの挨拶をする。 ・保護者の方にアンケートをお願いし、アンケート用紙、クリップボード、ペンを配布する。 ・片付け、さようならをする。	

2016年5月12日・記入者 柳原結美/石橋里彩子

### 活動記録

活動	リズムでねんど (全体)	活動日 2016年5月28日 対象年齢 幼児-小学生 活動時間 2時間 対象人数 14名 指導者数 12名
活動のねらい	・友達や学生リーダーと関わる中で粘土活動を楽しむ。 ・粘土の感触を知り、親しみを持つ。	
活動内容		準備 ・粘土を切り分けておく。 ・準備は残しておく。 (用意するもの) ・雑巾 ・粘土(小麦粉、テラコッタ) ・粘土へら ・洗面器 ・新聞紙 ・粘土板 ・霧吹き ・ビニールシート
進行	【導入】・9時半に受付を済ませ、子どもと保護者に分かれて自由に着席してもらおう。 ・挨拶をして、今日のプログラムを紹介し、学生の自己紹介をする。 ・友達や学生リーダーと関わる中で粘土活動を楽しむ。 ・粘土の感触を知り、親しみを持つ。  【展開】1.折り紙「生きもの折り紙クイズ」2.テラコッタ粘土「マーチで粘土」小麦粉粘土「モッチと粘土」 【まとめ】子どもたちが制作した作品を認め、鑑賞し合った後、折り紙の認定証を手渡す。 ・保護者の方にアンケートをお願いし、アンケート用紙、クリップボード、ペンを配布する。 ・片づけ、さようならをする。	注意事項 ・子どもが意図的に取り組めるよう一人ひとり丁寧に折り紙や粘土を手渡したり、声かけを行ったりする。 ・粘土が乾かないように、適宜霧吹きで粘土に水分を与えよう。 ・友達や学生リーダーと関わる機会を設けることで、子どもたちが安心して粘土遊びができるようにする。 ・一人の子もただでなく、全体を見るようにする。 ・自分なりに表現している幼児の作品を、しっかり認める。  今後の課題 ・保護者へのアンケート用紙を十分に用意しておくようにする。

2016年6月10日・記入者 橋本結加 後藤玲美


## ② 生きもの折り紙クイズ

### アイデアカード

活動	生きもの 折り紙 クイズ	対象年齢 幼児-小学生 活動時間 2時間 対象人数 14名 指導者数 12名
活動のねらい	クイズや自分だけの本作りを通しながら折り紙を折ることで折り紙に親しみ、折り紙の楽しさを味わう。	
活動内容	準備・用意・注意 【導入】 ・9時半には子どもと保護者を案内し、着席してもらおう。 →この時なるべく子どもが自主的に作れるようにしたい旨を保護者に伝える。 ・挨拶をして今日のプログラムを伝える。 ・リーダーの自己紹介をする。 ・保護者に向けワークショップの目的等を簡単に説明する。 ・折り紙クイズの説明をする。 ・折り紙クイズBOOKの台紙を配る。  【展開】 ・折り紙クイズの答えを全員で考える。 ・好きな折り紙を選んでもらう。 ・折り紙を折る。 →この時一人ひとりに差がでないよう、折れているか確認する。 ・折り紙に模様をつける。 ・作品を本に貼る。  ・上記を繰り返す。  【折り紙クイズBOOKの内容】 ① うさぎ (おみながないよ、ひよんよんとぶよ、にんじんがすきだよ) ② くじら (うみのなかにすんでいるよ、うみのいきものながでいばんおきいよ、せなかからしおをふくよ) ③ ばった (くきのなかにすんでいるよ、じゃんががとくだよ、あしがむんあるよ) ④ ぞう (ちからもちだよ、りっぱなきばをもっているよ、おはながないよ)  【まとめ】 ・完成した本を鑑賞する。 ・次の活動につなげる。	

2016年4月25日・記入者 高萩くるみ

### 活動記録

活動	生きもの 折り紙 クイズ	活動日 2016年5月28日 対象年齢 幼児-小学生 活動時間 2時間 対象人数 14名 指導者数 12名
活動のねらい	クイズや自分だけの本作りを通しながら折り紙を折ることで折り紙に親しみ、折り紙の楽しさを味わう。	
活動内容		準備 ・折り紙 (15cm、11cm) ・折り紙折り紙BOOK (人数分) ・ペン ・テープ ・ビデオカメラ (5台) ・折り紙見本
進行	【導入】 ・折り紙クイズの説明をする。 ・折り紙クイズBOOKの台紙を配る。  【展開】 ・折り紙クイズの答えを全員で考える。 ・好きな折り紙の色を選ぶ。 ・折り紙を折る。 ・折り紙に目や口などの模様をペンで書く。 ・出来た作品を本にテープで貼る。 ・上記を繰り返す。(全4問)  【まとめ】 ・本をリーダーに提出する。 ・次の活動につなげる。 (すべての活動の終了後、認定証に名前を書いた折り紙クイズBOOKを1人ずつ手渡しする。)	注意事項 ・一人ひとりに差がでないよう、折れているか確認し、みんなと同じ作業ができるようにする。 ・苦手なところを調査するため、指導者はあまり手動けしないようにする。 ・イメージができるよこの部分折っているよと声掛けをする。(例えば、「次はうさぎの耳をおろすよ」など)  今後の課題 ・三角折りばかりで、四角折りを取り入れていなかった。 ・折り紙の折り方の説明が分かりにくいところがあった。

2016年6月15日・記入者 高萩くるみ

### ③ マーチでねんど

#### アイデアカード

活動	マーチでねんど	対象年齢 幼児-小学生 活動時間 2時間 対象人数 14名 指導者数 12名
活動のねらい	・音楽に合わせてかたい粘土の感触や形の変化を楽しむ。興味をもてるようにする。 ・身体全体を使って、粘土にダイナミックに関わる。	
活動内容	【導入】 ・硬い粘土と既にこねて柔らかい粘土を提示し、比べて見て、興味をもつことができるようにする。 ・音楽に合わせてこねることによって柔らかくなることを知らせ、活動に意欲をもてるようにする。 ・シートに集まり、一人一人に粘土を手渡す。 【展開】 1. 音楽に合わせて粘土をこねたり、踏んだりする。 2. 1曲目が終わった時に、周りの友達と粘土の硬さを比べ、硬さの変化を楽しむ。 3. よりダイナミックな動きができるよう言葉をかけ、さらに柔らかくなるようにする。 4. こねたり伸ばしたりしながら、自分の好きな形を作り、指導者や周りの友達と共有する。 ・指導者は子どもが粘土を口に入れないように、安全面に気を付ける。 ・乾燥してきた粘土には、子どもが遊びやすいように、霧吹きをかける。 【まとめ】 ・粘土の硬さの変化に気がつくことができたか聞いてみる。 ・作品を保存する。 ・片付けをする。	準備・留意・注意 ・硬い粘土（硬度5） ・見本用粘土2つ（硬度5、硬度3） ・ビニールシート ・ヘア ・霧吹き ・雑巾 ・タオル ・CD（ぼよん行進曲、アンパンマンマーチ、さんぽ） ・CDデッキ

2016年6月7日・記入者 西田美穂/山田梨央奈

#### 活動記録

活動	マーチでねんど	活動日 2016年5月28日 対象年齢 幼児-小学生 活動時間 2時間 対象人数 14名 指導者数 12名
活動のねらい	・音楽に合わせて硬い粘土の感触や形の変化を楽しむ。興味をもてるようにする。 ・粘土の硬さを知り、ダイナミックに関わる。	
活動内容	【導入】 ・硬い粘土と既にこねて柔らかい粘土を提示し、比べて見て、興味をもつことができるようにする。 ・音楽に合わせてこねることによって柔らかくなることを知らせ、活動に意欲をもてるようにする。 ・シートに集まり、一人一人に粘土を手渡す。 【展開】 1. 音楽に合わせて粘土をこねたり、踏んだりする。 2. 1曲目が終わった時に、周りの友達と粘土の硬さを比べ、硬さの変化を楽しむ。 3. よりダイナミックな動きができるよう言葉をかけ、さらに柔らかくなるようにする。 4. こねたり伸ばしたりしながら、自分の好きな形を作り、指導者や周りの友達と共有する。 ・指導者は子どもが粘土を口に入れないように、安全面に気を付ける。 ・乾燥してきた粘土には、子どもが遊びやすいように、霧吹きをかける。 【まとめ】 ・粘土の硬さの変化に気がつくことができたか聞いてみる。 ・作品を保存する。 ・片付けをする。	準備 ・テラコッタ粘土（硬度5） ・CD（ぼよん行進曲、アンパンマンマーチ、さんぽ） ・CDデッキ ・ヘア ・ブルーシート ・霧吹き ・雑巾 ・タオル 準備したほうが良かったもの ・様々な形の押し型（丸型、四角…など）
進行	1.ブルーシートの上に乗る。柔らかい粘土と硬い粘土両方に触れ、硬さの違いを感じてもらう。 2.「みんなの手で粘土を柔らかくしよう」と声をかけ、音楽に合わせて、粘土を叩いたり、おろしたりする。 3.一旦おろした活動を止め、「最初に比べて粘土の硬さどうなったかな？」といった声かけを行い、最初とおろした後の粘土の硬さの違いに気付くようにする。 4.「今度は立って踏んでみよう」と声をかけ、音楽に合わせて、かかとやお尻など体全体を使って粘土を踏み、柔らかくする。 5.先生の声かけに合わせて粘土を丸めたり、平らにしたり、細長くしたりする。 6.粘土の硬さや感触、形の変化を充分に感じてもらうため、「自分の好きなものを作ってみよう」と声をかけ、自由に制作してもらう。 7.完成した作品に名前を彫って、板の上に置く。	注意事項 ・押し型を使っている子どもには、怪我をしないように養生を伝え安全に使えるようにする。 ・全体を回り、作品が完成している子どもがいたら、他の子どもにも見せ、褒める。 ・何を作ればいいのかアイデアが浮かばず、手が止まっている子どもには、好きなキャラクターや食べ物のお話をし、制作の意欲が高まるようにする。 ・粘土が乾かないよう、適宜霧吹きで粘土に水分を与え、乾燥を防ぐ。 今後の課題 ・硬さや形の状態を気にしている保護者がいたので、硬さや形の見本を置いておく。また何を作ったほうが面白い子どものために、形を作った粘土の見本もいくつか置いておく。 ・硬い粘土と柔らかい粘土の違いを感じてもらおうと、どちらが硬く、柔らかいのかわからない子どももいたので、あらかじめ粘土をもったおろしたり、丸くもってもらったりする。 ・リズムに合わせて粘土をねられるような声かけの工夫をする。

2016年6月10日・記入者 耕地真由、三高弘子

### ④ モチッとねんど

#### アイデアカード

活動	モチッとねんど	対象年齢 幼児-小学生 活動時間 2時間 対象人数 14名 指導者数 12名
活動のねらい	・小麦粉粘土の感触を楽しむ。 ・色付き小麦粉粘土の色が変化する様子を楽しむ。	
活動内容	【導入】 ・小麦粉粘土（小麦粉+水） ・バネルマット ・ビニールシート ・型抜き ・タオル ・手拭き用タオル ・霧吹き ・食紅（赤、黄、青、緑） ・洗面器 【展開】 ・型抜きを出して好きな形に抜いて作る。 ・違う色の小麦粉粘土を組み合わせて好きなものを作る。 ・小麦粉粘土を引っ張ったり、ちぎったりして感触を楽しむ。 ・小麦粉粘土が乾いてきたら、霧吹きで水をかける。 【まとめ】 ・できた作品を鑑賞し、「○○ができたね、そっくりだね」などの声掛けをすることで、活動の満足感が味わえるようにする。	準備・留意・注意 ・小麦粉粘土（小麦粉+水） ・バネルマット ・ビニールシート ・型抜き ・タオル ・手拭き用タオル ・霧吹き ・食紅（赤、黄、青、緑） ・洗面器

2016年5月28日・記入者 岡本 佳穂

#### 活動記録

活動	モチッとねんど	活動日 2016年5月28日 対象年齢 幼児-小学生 活動時間 2時間 対象人数 14名 指導者数 12名
活動のねらい	・小麦粉粘土の感触を楽しむ。 ・色付き小麦粉粘土の色が変化する様子を楽しむ。	
活動内容	【導入】 ・小麦粉粘土（小麦粉+水） ・バネルマット ・ビニールシート ・型抜き ・タオル ・手拭き用タオル ・霧吹き ・食紅（赤、黄、青、緑） ・洗面器 【展開】 ・型抜きを出して好きな形に抜いて作る。 ・違う色の小麦粉粘土を組み合わせて好きなものを作る。 ・小麦粉粘土を引っ張ったり、ちぎったりして感触を楽しむ。 【まとめ】 ・できた作品を鑑賞し、「○○ができたね、そっくりだね」などの声掛けをすることで、活動の満足感が味わえるようにする。	準備 ・小麦粉粘土（小麦粉+水） ・バネルマット ・ビニールシート ・型抜き ・タオル ・手拭き用タオル ・霧吹き ・食紅（赤、黄、青、緑） ・洗面器 準備したほうが良かったもの ・無着色の小麦粉粘土
進行	・型抜きは幼児の手が傷つかないように、角の丸いプラスチック製のものにする。 ・乳児や幼児が安心して参加できるように「触ってみよう、もちもちだよ」などの声掛けをする。 ・小麦粉粘土の感触を楽しむ。 【展開】 ・型抜きを出して好きな形に抜いて作る。 ・違う色の小麦粉粘土を組み合わせて好きなものを作る。 ・小麦粉粘土を引っ張ったり、ちぎったりして感触を楽しむ。 【まとめ】 ・できた作品を鑑賞し、「○○ができたね、そっくりだね」などの声掛けをすることで、活動の満足感が味わえるようにする。	注意事項 ・型抜きは幼児の手が傷つかないように、角の丸いプラスチック製のものにする。 ・テラコッタ粘土の活動に参加した子どもも活動に飽きたり早めに作品を作り終えたりしたら、小麦粉粘土ができるように準備しておく。 ・テラコッタ粘土で遊んだ子どもが粘土の感触の違いを感じられるように、声掛けに工夫をする。 ・色を混ぜた小麦粉粘土を見せることで興味を持って突っこ、形だけでなく色の変化も楽しめるようにする。 今後の課題 乳児は着色された不自然な色の粘土に抵抗を感じたのか触ろうとしなかったため、無着色の小麦粉粘土の方が向いているのかもしれないと感じた。また手に粘土が付くことを気にしている様子も見られたので、粘土の調整を細かくする必要があると感じた。

2016年6月1日・記入者 石原新世・中島唯菜